

第 17 章 環境マネジメントシステム

第 1 節 環境マネジメントシステム

1980 年代に入り、深刻化する地球環境問題の解決に向け、地球規模的視野に立った国際的な取り組みが行われるようになってきた。

国連内に設置された「環境と開発に関する世界委員会」は、1987 年（昭和 62 年）に「持続可能な開発」という考え方を提唱し、その後の世界各国の環境施策に大きな影響を与えた。

そして、1992 年（平成 4 年）には、ブラジルのリオで地球サミットが開催され、環境問題に対し地球規模で取り組むことが国際社会で確認された。

この頃、世界各国の経済界では、環境管理についての関心が高まりつつあり、BCSD（持続的発展のための経済人会議）において、環境保全と経済発展の両立を目指す過程で、「環境効率性」という考え方が生まれた。また、BCSD では、持続可能な開発のための企業が取るべき行動について、国際規格化の重要性が議論されていた。

このような経済界からの要請を受け、国際標準化機構（ISO）では、環境に関する国際標準規格の制定作業が行われ、1996 年（平成 8 年）に環境マネジメントシステムに関する国際規格 ISO14001 が発行された。

1 ISO14001 の認証取得・返上までの経緯

本市においては、平成 14 年に ISO14001 の調査及び研究を開始し、先進地の視察や内部協議を経て、推進体制の整備や認証取得範囲の決定を行ってきた。

平成 15 年度から平成 16 年度にかけて、段階的に環境方針や環境側面、目的及び目標の策定を行いながら、環境マネジメントシステムを構築した。

そして、平成 17 年 2 月 23 日に、本庁舎及び保健福祉センターを対象として ISO14001 の認証を取得した。

その後、継続的な環境改善に努めるとともに、国際規格への適合性などについて外部機関の審査を受けながら、認証を維持してきた。

こうした取り組みにより、ISO のノウハウが蓄積され、環境マネジメントシステムの運用体制が確立されたことから、平成 25 年 12 月 31 日に ISO14001 の認証を返上し、平成 26 年 4 月 1 日から市独自の環境マネジメントシステムにより、環境負荷の低減に努めていくこととした。

2 君津市環境マネジメントシステム

市独自の環境マネジメントシステムでは、適用範囲を市の全ての公共施設に拡大し、市の事務事業の中から環境に影響を与えるものを管理項目とし、目標を設定した（表 17-1）。

（表 17-1） 君津市環境マネジメントシステムの管理項目・管理目標

管理項目	担当部署	管理目標
電気の使用量	施設管理担当部署	前年度を超えないこと
公用車燃料の使用量（ガソリン・軽油）	全部署	前年度を超えないこと
公用車以外の燃料の使用量（都市ガス・LP ガス等）	施設管理担当部署	前年度を超えないこと
コピー用紙の購入枚数	全部署	前年度を超えないこと
上水道の使用量	施設管理担当部署	前年度を超えないこと
廃棄物の排出量	施設管理担当部署	リサイクル・分別の徹底

第2節 エコスクールきみつ認定事業

資源循環型社会の構築には、私たち一人ひとりが環境配慮の意識を向上させる必要がある。

そのため、児童及び生徒の環境を大切にする心を育み、環境に配慮したライフスタイルを身につけることを目的として、“エコスクールきみつ”の認定制度を平成17年度に創設した。

この制度は、児童、生徒及び教職員が自主的に取り組めるよう、ISO14001の要素を取り入れ、それぞれの取組みを自己評価、自己改善し、環境にやさしい学校づくりを行う仕組みである。

積極的な環境配慮活動の継続をサポートするために、毎年度、各学校の特色ある報告書の提出を求め、3年に一度の現場審査を実施し、認定を更新している。

市では、平成22年度までに全ての小中学校の認定を終え、各学校では、節電、節水や資源ごみの回収、学校周辺の自然環境を活かした環境学習などに取り組んでいる。こうした取組みが、家庭や地域に広がっていくことを期待するものである。